

人と自然：環境思想セミナー vol.22

# エコロジー への感性を 養うアート

話し手 長谷川 祐子 氏

東京都現代美術館チーフキュレーター・多摩美術大学特任教授

2009.07.10.(fri.)15:00-17:00

総合地球環境学研究所(地球研)・講演室

主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(里プロジェクト)  
<http://www.chikyuu.ac.jp/sato-project>



# エコロジック への感性を 養うアート

話し手：長谷川祐子氏

東京都現代美術館チーフキュレーター  
多摩美術大学特任教授

聞き手：鞍田 崇

総合地球環境学研究所上級研究員

2009.07.10.(fri.) 15:00-17:00

総合地球環境学研究所(地球研)・講演室

情報化と文化のグローバル化の中で、均質化、矮小化する傾向にあるアート。それに対して、既成の「アート」の枠を越えて、感性の活性化をはかろうとする様々な試みが行われています。

そうした試みの一つとして、生物学的多様性や生態系モデルなどを参照し、エコロジカルな表現を展開しようとしている動向についてご紹介します。



Jeppe Hein  
Appearing Rooms  
2004

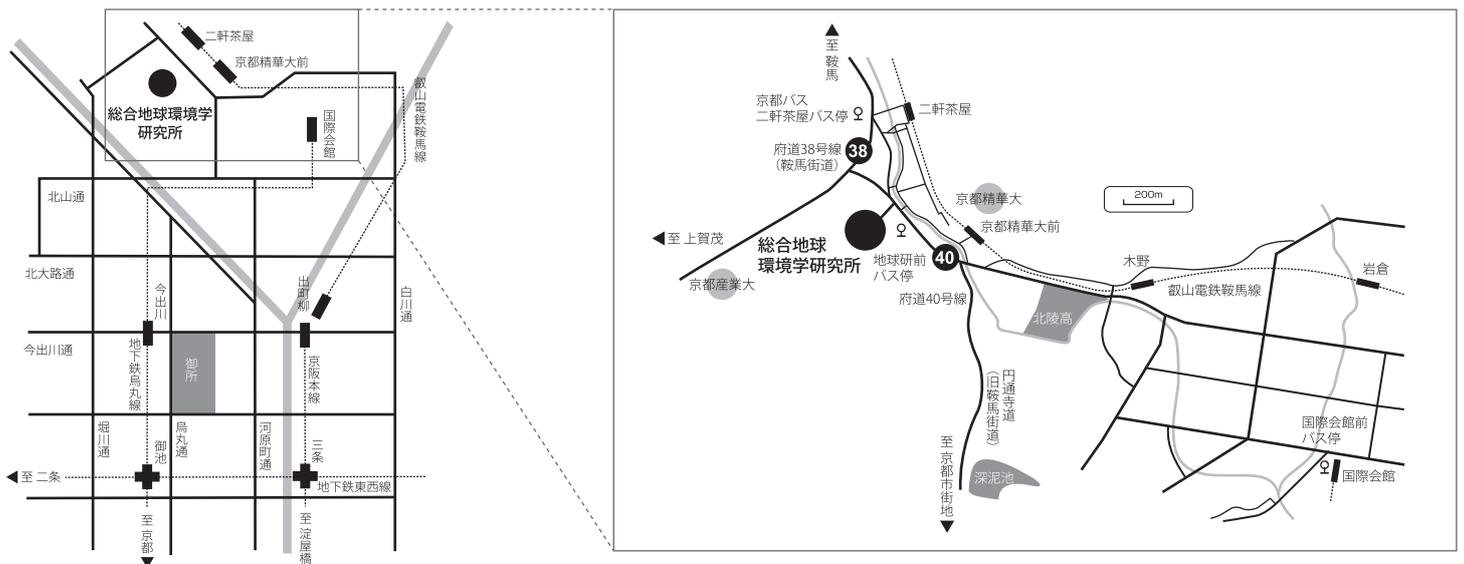
Installation view from Villa Manin, Passariano (Italy)  
Courtesy of Johann Koenig, Berlin, 303 Gallery,  
New York, SCAI THE BATHHOUSE, Tokyo

長谷川 祐子 HASEGAWA Yuko 東京都現代美術館チーフキュレーター・多摩美術大学特任教授

京大文学部卒業、東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了。水戸芸術館学芸員、ホイットニー美術館研修(ACC奨学金)、世田谷美術館学芸員、金沢21世紀美術館学芸員、同芸術監督(2005-2006)を経て、2006年より現職。その間、アートやファッション、建築、デザインなど幅広い領域から、人間の身体をも含む環境としての「スペース」(空間)をめぐる視覚表現の動向を提示した「スペース・フォー・ユア・フューチャー」(東京都現代美術館、2007年)をはじめ、内外で多くのビエンナーレ、展覧会の企画にかかわり、アートの最前線を斬新かつ明快な切り口で紹介してきた。現在、ウェックスナー・センター・フォー・ジ・アーツ国際芸術諮問委員、グッゲンハイム美術館アジア芸術委員、西九龍文化地区公社理事、美術館評論家連盟会員、犬島アートギャラリープロジェクト・アーティストティック・ディレクターも務めている。

最近手がけた展覧会としては、「池田亮司：+/- [the infinite between 0 and 1]」(東京都現代美術館、2009年)、「ネオ・トロピカル：ブラジルの創造力」(同、2008-2009年)「SEJIMA+NISHIZAWA/SANAA」(サンパウロ：トミエ・オータケ・インスティテュート、2008年)、「ライブがフォームになるとき」(サンパウロ近代美術館、2008年)などがある。

## ACCESS MAP



- JR「京都駅」・近鉄「京都駅」・阪急「烏丸駅」より  
京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。国際会館駅バスターミナル2番乗場から  
京都バス40系統(京都産業大学行き)もしくは50系統(市原ゆき)にて(約10分)、「地球研」下車スグ。
- 京阪「出町柳駅」より  
叡山電鉄鞍馬線に乗り換え、「京都精華大前」もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

※マイカーの利用はご遠慮ください。

聴講無料・申込不要

お問合せ | 環境思想セミナー担当 鞍田崇 (地球研・上級研究員)  
075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyu.ac.jp

主催・総合地球環境学研究所 文明環境史領域 プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」(里プロジェクト)

次回予告： vol.23 2009年8月14日(金) 「身体環境としての衣服」  
講師・鷲田清一氏(哲学者・大阪大学総長)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
総合地球環境学研究所(地球研)  
〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4  
http://www.chikyu.ac.jp

---

総合地球環境学研究所（地球研） 里プロジェクト  
人と自然：環境思想セミナー Information 2009.07.01. (wed.)

---

雨上がりの木漏れ日、  
目より耳に響くようなまぶしさです——kurata

NEXT SEMINAR >> vol.22 「エコロジーへの感性を養うアート」  
2009. 07. 10. (fri.) 15:00-17:00 地球研・講演室  
話し手：長谷川祐子さん（東京都現代美術館チーフキュレーター・多摩美術大学特任教授）  
主催：地球研・里プロジェクト（代表：佐藤洋一郎 地球研 副所長・教授）

アートとエコロジー、両者の対話がいま求められています。

両者の接続そのものには、もはや目新しさはありません。環境問題が注目され始めた 1960 年代末から、アートの現場では、いわゆるアース・ワークにはじまり、エコロジカルなコンセプトを導入する様々な試みがなされてきました。

エコロジーを手がかりにすることが、アートにとってどんな意味があるのか。逆にアートによる表現を、エコロジーはどう受けとめるべきなのか。いま問われているのは、その内実、つまり単にコンセプトを結びつけるだけでなく、融合し深めること。

エコロジーの側についていえば、これはずっと急務な課題といえます。温暖化に象徴されるように、地球環境に対する問題意識がひろく社会一般に共有された感がある一方、実態は抜本的な打開策を見いだせないまま、出口なしの袋小路に入ったかのよう。ともすると、私たちの日常的な環境認識、つまり環境をそのときどきに感受する能力、感性までも萎えかねないのが現状です。

現代アートの最前線で活躍されてきた長谷川さんなら、きっと皆さん一人ひとりの感性に響く作品を明快な語り口でご紹介くださることでしょう。眠りかけていた感性を呼び覚ます機会になれば幸いです。

みなさまのご参加、心よりお待ちしております。

---

[お問い合わせ先]

鞍田 崇（地球研 プロジェクト上級研究員、環境思想セミナー担当）  
京都市北区上賀茂本山 457-4 〒603-8047  
kurata@chikyu.ac.jp tel: 075/707/2382（直） fax. 075/707/2508  
<http://www.chikyu.ac.jp/sato-project/thought.html>